

フォローアップ事業「JENESYS 同窓人のタベ」の記録

1. プログラム概要

【目的】「対日理解促進交流プログラム(JENESYS プログラム)」による訪日団経験者の同窓組織の活性化を通じ、日本との繋がりを持続を促進するとともに、日本に対する肯定的な認識と理解の拡大に寄与することを主目的に、2022 年 8 月から 2023 年 3 月にかけて JENESYS 同窓人の集いを実施しました。

【参加者】韓国の大学生・社会人等合計 213 名

※2015年度～2022年度に実施されたJENESYSプログラムの参加者が対象

【日程】

日にち 開催場所	内容	参加者の質問・反応 (参加者の人数実績)
1 回目 8 月 26 日 韓国ソウル (2019 年度 在韓国日本 大使館選抜 訪日団参加 者が対象)	【概要説明】 【日本の事業組織紹介】 国際交流基金ソウル日本文化センター 【基調講演】 「地域の魅力紹介」 講師：辻井拓 宮城県ソウル事務所長 【交流】 2019 年度訪日団参加経験者間の懇談	基調講演では宮城県の復興状況について認識を共にする機会を持ち、訪日団で他県を訪問した参加者からは「今まで知らなかった宮城県の復興状況について知ることができ有益だった」との声がありました。 一行がホームステイを行った北海道と青森県のホストファミリーからの動画を紹介すると感激の声があがり、参加者一同、日本や日韓交流への思いを新たにしました。 (参加者：54 名)
2 回目 10 月 21 日 韓国ソウル (2018 年度 在韓国日本 大使館選抜 訪日団参加 者が対象)	【概要説明】 【日本の事業組織等紹介】 ① 国際交流基金ソウル日本文化センター ② JET プログラム(語学指導等を行う外国青年招致事業) 【基調講演】 「地域の魅力紹介」 講師：朝長浩志 長崎県ソウル事務所長 【交流】 2018 年度訪日団参加経験者間の懇談	韓国との交流に尽力している日本の様々な団体の紹介やホームステイを行ったホストファミリーからのメッセージに熱心に耳を傾けていました。 懇談中は約 4 年ぶりの再会を喜び合うとともに、互いの現在の日本との繋がりを共有しあう有意義な時間となりました。

		(参加者：61名)
3回目 3月18日 韓国釜山 (2015年度 ～2022年度 在釜山日本 総領事館選 抜訪日団参 加者が対 象)	【訪日団参加者からの報告】 ① 日本での就業成功談 ② 日本での起業成功記 ③ 訪日団参加体験談（団長経験者） 【交流】 ① 2022年度訪日団制作Vlog優秀作上映 ② 訪日団参加経験者間の懇談等 【関係機関紹介】 国際交流基金ソウル日本文化センター他	同窓会参加者の訪日団参加時期が相違するため、一同のコミュニケーションを促進するための多様なプログラムを準備し、終始和やかな雰囲気の中で進められました。 特に、訪日団参加の所感及び訪日団参加後の日本との関わりについての報告では、各自が訪日団参加当時の決意や目標を思い返し、今後の日韓交流への思いを新たにす良き契機となりました。 (参加者：98名)

2. プログラム記録写真

	
8月26日【日本の事業組織紹介】国際交流基金ソウル日本文化センター	8月26日【基調講演】宮城県ソウル事務所「被災からの復興状況の紹介」
	
10月21日【基調講演】長崎県ソウル事務所「地域の魅力紹介」	10月21日【日本の事業組織等紹介】JETプログラム

	
3月18日【交流】訪日団参加経験者間の懇談	3月18日【訪日団参加者からの報告】訪日団参加体験談（団長経験者）

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 韓国 大学生（2018年度訪日団参加者、鹿児島県にてホームステイ）

同窓メンバーとの久しぶりの再会は嬉しかったです。両国の関係はこれまでコロナの影響もあり疎遠になっていましたが、今回のプログラムが関係改善のきっかけになるのではと胸が高鳴りました。

◆ 韓国 大学生（2019年度訪日団参加者、青森県にてホームステイ）

コロナにより物理的に遠くなってしまった日本でしたが、今回のプログラムを通し、再び近い国になったと感じました。

◆ 韓国 会社員（2018年度訪日団参加者、長崎県にてホームステイ）

改めて JENESYS 訪日団の一員だったことを感謝したいです。コロナによる空白がなかったと思われるほどの温かい雰囲気の中、当時を思い出すと同時に現在を分かち合う良い時間になりました。様々な有益なプログラムの紹介を通し、まだ両国が共に歩める未来が開かれていることを感じました。

◆ 韓国 会社員（2019年度訪日団参加者、長崎県にてホームステイ）

訪日団として訪日後、日本と韓国の友好のために自分に何ができるだろうかと悩んだ結果、韓国と日本を行き来しながら地道に日本人の友人たちと交流を続けてきました。

就職後は多忙のためこれまでよりも交流が少なくなりましたが、訪日時の決意がリマインドされるきっかけになりました。今回の同窓会が単純な再会ではなく、各自の目標や決意をリマインドする意味ある場となり感謝しています。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 同窓会実施協力機関（在大韓民国日本国大使館 JET プログラム担当者）

日韓関係の改善及び継続的発展のためには、次世代を担う若い世代の交流が重要であることは論を俟ちません。JET プログラムは、外国の青年に、日本全国の地方自治体において、地域住民と共に日本の地方の国際化促進のために活躍いただくプログラムであり、JENESYS に参加経験のある、日本への関心が高い若い世代に、同プログラムを紹介できたことは大変意

 홈스테이 가족들의 인사 영상에서는, 무려 저희 단이 다녀온 고치 시만토시의 가족분들이 영상을 찍어주셨습니다! 😭 저희 팀이 찾아 뵈었던 가족분들의 영상은 없지만, 같은 단원들이 머물렀던 가족분들을 보니까 괜히 같이 반가워합니다 😊💕	 마지막 단체 사진까지 !! 3년 전이었음에도 불구하고 어제처럼 생생하게 남아있는 추억들에, 오랜만에 본 얼굴들도 반가우면서 오랜만이 아닌 것 같았어요 😊 다들 방일단 이후로도 잘 지내고 있어서 너무 기쁘고 이런 자리가 마련되어 다시 만날 수 있어 더 뜻깊은 시간이었습니다. 무엇보다 저희끼리 만났다면 알지 못했을 선배님들과 선배님들의 근황(취업 이야기, 사업 이야기, 현재 어디 재직 중이신지 등등)을 전해들으니 더 열심히 해야겠다는 생각이 들었습니다 😊
ホームステイについての発信 ホームステイ家族からのメッセージ映像では、自分たちの団が訪問した高知県四万十市の家族が登場しました。 私のホームステイ先ではありませんでしたが、同じ団員がお世話になった家族の顔を拝見し共に喜び合いました。	同窓会についての発信 何よりも自分たちだけでの再会では知りえなかった先輩方と先輩方の近況(就職に関する話、事業に関する話、現在どこに在籍しているか等)をお聞きすることができ、もっと自分も頑張らなくてはと思いました。

6. 被招へい者の現在の日本との繋がりと活動内容例の紹介

	
活動例 1 : ソウル同窓生 訪日団からの帰国後、アクションプランに基づき東北地方の復興の記録と魅力を紹介する冊子やステッカーの自主制作を開始され、訪日団参加後 3 年半が経過した現在も継続中です。また、今回の同窓会をきっかけに、これから訪日をする後輩約 100 名を対象に、自分たちの経験や訪	活動例 2 : 釜山同窓生 現在、JET プログラムの一員として大分県で日韓の文化交流に携わる同窓生や、日本で起業し日韓を舞台にビジネスを行う同窓生など、多くの JENESYS 同窓生が日韓交流の第一線において活躍されています。

日に向けたアドバイスを含むプレゼンを実施するなど、日本理解を促進する活動を活性化させています。	
--	--

実施団体名：公益財団法人 日韓文化交流基金